令和５年度　高鍋町立高鍋西小学校　学校評価書（自己評価・学校関係者評価）４段階評価　【　A…よい　B…概ねよい　C…あまりよくない　D…よくない　】

教育目標	生命の尊重を基本理念とし、地域・学校・家庭の機能を生かし、相互の連携を図りながら「たくましい体・豊かな心・すぐれた知性」をそなえた思考力・表現力・実践力のある児童を育成する。			
目指す学校像	○　きまりよい学校 ○　きれいな学校	（当たり前のことが当たり前にできる子どもを育てる学校） （清掃が行き届き、整理整頓がよく、花いっぱいの学校）	○　夢のある学校 ○　家庭・地域と連携する学校　【ＣＳ】	（互いの良さを認め合い、分かる喜びを大切にする学校） （つながり・絆を大切にし、子どもを育てる学校）
目指す児童像	○　元気な子ども ○　よく考える子ども	（しっかり食べて、明るく元気でがまん強い子ども） （よく見て、良く聞き、よく考え工夫する子ども）	○　やさしい子ども ○　高鍋を大好きな子ども	（決まりを守り、思いやりの心をもち、助け合う子ども） （ふるさとを愛し、誇りに思う子ども）
目指す教職員像	○　授業を創造・実践する教師 ○　協力し合う教師		○　子どもを伸ばし、子どもと伸びる教師 ○　信頼される教師	
目指す保護者像	○　子どもとともに学ぶ保護者 ○　学校・地域と協力して子どもを育てる保護者		○　子どもの将来を考え、愛情と厳しさをもち、的確なしつけのできる保護者	
本年度の重点 （教育的課題）	1　たくましい心と体　健康的な生活の習慣化、体力・耐力の向上、食育の推進 3　学力の向上　学習基盤の確立、学習内容の確実な定着　特別支援教育の推進		2　心の教育の充実　基本的な生活習慣の定着、互いを認め合うよりよい人間関係づくり 4　地域との連携　幼保小中連携の強化、保護者・地域と連携した児童の育成	

評価項目		方　策　・　手　立　て	評　価　指　標	自　己　評　価				学校運営協議会委員評価	
				指標別	総合	結　果　の　考　察　・　分　析	改　善　策　等	コメント	評価
たかなべ学校エンパワー事業	授業改善等を中心とした子ども一人一人を伸ばすための「実効性のある」学校づくりの研究・実践	○　協働的な学びを重要視した授業づくりの研究や相互授業参観を通して授業改善に努める。	○　校内における研究授業を３回行い、協働的な学びの在り方について協議を行う。	A	A	○　協働的な学びの在り方や内容の定着の仕方などを学年部で考えることで、よりよい授業づくりに取り組むことができた。さらに、ＩＣＴの活用については互いの指導技術を共有する機会をもつことができ、使用率の向上につなげることができた。 ○　えがおサポート会議の内容を見直すと共に、必要に応じてケース会議を開き、よりよい支援の在り方を検討し、実践につなげている。 ○　前年度同様、地域と連携した学習を行うことができている。報道関係で取り上げてもらうことで、取組を周知することができている。 ○　学校運営協議会にて熟議の場を設けたことで、本年の課題であった「安全教育」について様々な角度からのアイデアをもらった。それを基に、新たな取組を行うことで課題の改善につながった。 ○　本年度は幼保小連絡会を実施し、次年度入学予定の児童について情報収集を図ることができた。 ○　スクールソーシャルワーカー等との情報交換や協議を通して、支援を必要とする家庭に対して支援の充実を図ることができた。	○　ＩＣＴの効果的な活用法についてさらに研修を深めるとともに、職員差が小さくなるようにする。 ○　「コグトレオンライン」を積極的に活用し、個別最適な学びを実現していきたい。 ○　地域の方との口中学習を見直し、地域の力を生かした学習に取り組んでいく。 ○　幼保小の連携を更に密にし、「切れ目のない子育て支援」を今後も継続する。 ○　支援を必要とする家庭は、以前よりも増加傾向にあるので、今後もスクールソーシャルワーカー等との連携した取組を行っていく。	○　学習指導案に「協働的な学び」と「ICT 活用」の視点を明確に位置づけ、授業改善に取り組んでいる。 ○　地域や関係機関との動を行わせている。西小は地域に開かれた学校である。 ○　SSW、カウンセラーの数は増やせないのか。 ○　民生委員として、よりたくさんの情報を共有したい。 ○　報道機関との連携が児童の意欲向上につながっている。	B
		○　ＩＣＴの効果的な活用方法をテーマにした主題研究を展開し、職員のスキルアップに努める。	○　キュビナの活用方法を協議し、使用率の向上に努める。	A					
	子ども一人一人に寄り添い，子どもの自己肯定感を高めるための特別支援教育・生徒指導の研究・実践	○　子どもの認知面等の育成を図る「コグトレ」を実践していく。	○　週２回設定した「コグトレ」の時間を確実に実践している。	B	B				
		○　児童の実態を的確に把握し、個に応じた指導を行う。	○　特別な教育的支援を必要とする児童には個別の指導計画を作成し、指導している。	B					
	学校、家庭、地域が一つになって高鍋町全体で子どもを育てる連携の在り方の研究・実践	○　地域コーディネーターと連携し、地域素材を積極的に活用した教育活動を展開する。	○ 地域や保護者と連携した教育の充実に努め、７０％以上の保護者が地域連携の充実を実感している。	B	B				
		○　学校運営協議会に熟議の場を設け、コミュニティ・スクールの活性化を図る。	○　熟議の場を設け、多様な意見を学校運営の参考にしている。						
	福祉課・健康保険課との連携による「切れ目のない子育て支援」の研究・実践	○　幼保との連携を密にし、実態把握と指導の充実に努める。	○　幼保小連絡会を実施し、就学前の児童の把握に努めている。	A	A				
		○　子育ての支援を必要とする家庭に対して、スクールソーシャルワーカーと連携し、支援の充実を図る。	○　福祉課・健康保険課やスクールソーシャルワーカー、関係機関との情報交換や協議を行い、よりよい支援を行っている。	A					
知育	【学力の向上と定着】 ・学習規律・学習基盤の確立 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ・主体的な学習態度の育成及び思考力・表現力の育成	○　基本的な学習習慣の定着を図る。 ○　協働的な学びを重要視した授業への改善を図る。 ○　学習する意欲をもたせ、言語活動を通して思考力等を育成する。 ○　ＩＣＴを効果的に活用し、学習内容の定着を図る。 ○　家庭学習の習慣化を図る。 ○　読書を推進し、昨年度の読書冊数を上回る。	○　一人一人の子どもに応じて分かりやすい授業を行っている。 ○　子どもたちは授業中、進んで学習に取り組んでいる。 ○　学習内容の定着のために、ＩＣＴを効果的に活用している。 ○　家庭学習の習慣が身に付いている。 ○　子どもたちは進んで読書し、本に親しんでいる。	B	B	○　ＩＣＴを効果的に活用し、内容の定着を図ることができている（キュビナの活用）。 ○　単元まとめのテストは、正答率８０％以上をほぼ達成できており、学力調査テストについても ○　「家庭学習の手引き」を配付し、家庭訪問や学級懇談時に呼びかけ、充実を図った。 ○　ボランティアの方による「読み聞かせ」も計画的に実施することができ、本に親しませることができた。	○　校内研究においてＩＣＴの内容を計画的に設定し、活用力の向上を図っていく。 ○　次年度は、タブレットパソコンの持ち帰りを恒常的に行い、個々の課題に応じた学習に取り組ませる。	○　普段の授業の中で、ＩＣＴを効果的に活用し、子どもの理解や学ぶ意欲の向上に努めている。教師の教材開発する努力に感心しています。	A
徳育	【命を大切にする豊かな心の育成】 ・基本的な生活習慣の定着 ・望ましい人間関係を築こうとする心の教育 ・落ち着いて行動できる児童の育成	○　すべての児童が元気にあいさつや返事が進んでできるようにする。 ○　規律意識、よりよい人間関係の醸成を図る。 ○　石井十次学習など様々な体験活動を通して道徳教育の充実と実体化を図り、思いやりの心、人権意識を育む。 ○　保護者・地域との連携を通して、地域を大切にする心を育む。	○　学校は、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに努めている。 ○　子どもたちは楽しく学校に通っている。 ○　子どもたちは、校内外で、笑顔で明るいあいさつや返事ができている。 ○　子どもたちは基本的な生活習慣が身に付いている。	B	B	○　「３つのあ」とウェルビーイングを呼びかけ、少しずつではあるがあいさつをする児童が増えてきている。ただ、校内であいさつはできているものの、校外でのあいさつは今ひとつのようである。 ○　石井十次学習や道徳教育の充実を図ったことで、思いやりの心を育むことはできている。	○　思いやりの心や人権意識を育む具体的な指導を、今後も意図的・計画的に行っていく。 ○　保護者・地域との連携を意識した取組を展開していく。	○　生活習慣の乱れが心配 ○　些細な子どもの変化に気を配って欲しい。 ○　評価を定期的に行いフィードバックを行っている。	A
体育	【たくましい心と体づくり】 ・健康的な生活の習慣化 ・運動に親しみ、健康でたくましい体の育成（体力向上） ・生涯にわたって楽しく明るい生活を営むための基盤づくり（食育、弁当の日）	○　外部と連携した防災教育の充実を図る。 ○　むし歯治療率を向上させる。 ○　体力テストを利用し体力を向上させる。 ○　メディアコントロールに積極的に取り組み、生活リズムを向上させる。 ○　外遊びを奨励し運動の日常化を図る。 ○　弁当の日を年２回実施する。	○　学校は、健康でたくましい子どもを育てるために体力向上に努めている。 ○　給食指導や食に関する指導の充実に努めている。 ○　安全な登下校や危険から身を守る態度の育成に努めている。 ○　子どもたちは生活リズムが身に付いている。	B	B	○　体力向上に努めているものの、児童の体力は低下傾向である。また、肥満傾向の児童の割合が多い。 ○　自分自身の生活習慣を確認する「すくすく週間」を学期１回行うことで、基本的な生活リズムを整えるきっかけとなっている。	○　体を動かす機会を確保するとともに、昼休みの外遊びの励行を徹底し、肥満傾向の児童の割合を減らしていく。	○　外部指導者と連携ができている。 ○　体を動かす楽しさを体感させてほしい。 ○　メディア普及が課題。	A

【次年度の方向性についての校長所見】　本年度はコロナ明け元年として、「不易と流行」の観点からいろいろとトライアルできる１年であった。学力向上では、校内研修に「協働的な学び」「ＩＣＴの効果的な活用」の２つを位置づけ、特にＩＣＴについてはどの学級でも授業での活用頻度が上がり、家庭学習への移行も進んだ。徳育では、人と人とのつながりを意識し、地域人材や町内の高校との連携を図り、ウェルビーイングも取り入れながら非認知能力の育成に力を入れてきた。次年度は課題としてあがった家読への取組を中心に、家庭との連携をさらに深めていきたい。アナログとデジタルと調和のとれた学校運営に今後もあたっていきたい。